
1. 学歴

- 1982年 3月 東京大学法学部卒業
1986年 6月 ハーバード大学修士課程(公共政策)修了
1994年 6月 ハーバード大学博士課程(公共政策)修了

2. 職歴・研究歴

- 2002年 9月 - 2004年 6月 プリンストン大学ウッドローウィルソン・スクール 客員研究員
2011年 5月 - 2016年 5月 ASEAN+3(日中韓)マクロ経済調査オフィス(AMRO) 所長
2016年 6月 - 2017年 7月 財務総合研究所 所長
2016年 3月 - 2018年 3月 京都大学経済研究所 特命教授
2018年 2月 - 2018年 3月 コロンビア大学国際公共政策大学院 客員研究員
2018年 4月 - 2020年 4月 京都大学東南アジア地域研究研究所 連携教授
2018年 4月 - 一橋大学経済学研究科 教授
2018年 4月 - 一橋大学国際・公共政策研究部 教授
2022年 6月 - 京都大学東南アジア地域研究研究所 客員教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(b) 大学院

Current Issues in International Economy
Regional Financial Arrangements and Economic Surveillance in East Asia
Macroeconomics: Theory and Policy
Field Research on Tax Administration
Workshop on Current Topics

B. ゼミナール

大学院
Seminar I
Seminar II

C. 講義およびゼミナールの指導方針

アジアの政策担当者として必要な実務的知識の習得に重点を置いている。

4. 主な研究テーマ

国際金融, 東アジア経済, 通貨危機防止の地域的枠組み

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

An Unexpected Outcome of the Asian Financial Crisis: Is ASEAN+3 a Promising Vehicle for East Asian Monetary Cooperation?, Princeton University Program on US-Japan Relations 2003 年.

(b) 論文(査読つき論文には*)

"The International Monetary System and the Role and Challenges of Regional Financial Safety Nets in Asia," *Bretton Woods: The Next 70 years*, Reinventing Bretton Woods Committee, 2015 年.

*"Quest for Financial Stability in East Asia, Establishment of an Independent Surveillance Unit 'AMRO' and Its Future Challenges" (共著), *Public Policy Review*, 2018 年.

*「東アジアにおける通貨金融面での安定に向けた取り組みー独立したサーベイランス・ユニット AMRO の設立と残された課題ー」(共著), *フィナンシャル・レビュー*, 133 号, 170-201 頁, 2018 年.

*"Finance and Japan" (共著), *Oxford Handbook of Japanese Politics*, Oxford University Press, 2021 年.

"Institutionalizing ASEAN+3 Regional Financial Cooperation and the Birth of AMRO" (共著), *Trauma to Triumph: Rising from the Ashes of the Asian Financial Crisis*, World Science Publishing and ASEAN+3 Macroeconomic Research Office (AMRO), 2022 年 5 月

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

"Establishment of an Independent Surveillance Unit "AMRO" and its Future Challenges," 明治大学・中国社会科学学院学術会議(2018 年 12 月 17 日)

「グローバル政策ネットワークと国際機関」, 日本学術会議学術フォーラム(2019 年 6 月 28 日)

(b) 国内研究プロジェクト

科学研究費補助金基盤研究(C)「東アジア地域通貨取極め(CMIM)と国際的な資金フローの関係」(19K01621), 2019 年度 - 2021 年度

(c) 国際研究プロジェクト

ASEAN+3 (China, Japan and Korea) Macroeconomic Research Office (AMRO), "History and Future Direction of Reginal Financial Cooperation Book Project," 共同研究者 (2020 年 9 月 - 2022 年 5 月)

Boston University, Global Development Center, "Taskforce on Lessons from CMIM-AMRO for the Global Financial Safety Net Surveillance," Taskforce Leader (2018 年 7 月 -)

6. 学内行政

(b) 学内委員会

国際・公共政策大学院カリキュラム委員

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

ボストン大学(米)Pardee School of Global Studiesにおいて講演(2019年2月)

東京大学国際公共政策大学院において講義(2019年12月)

ロンドン大学(英)とマレーシア中央銀行主催のラウンドテーブルでパネリスト(2022年8月)

(b) 所属学会および学術活動

日本金融学会

(c) 公開講座・開放講座

「地域金融の将来を考える」, 第17回一橋大学関西アカデミア・シンポジウム(2020年2月8日)

8. 官公庁各種審議会・委員会等における活動

財務省財務総合研究所客員研究員(2017年9月 -)

Think Tank 20 (T20), Taskforce member (2018年9月 - 2019年12月)

9. 一般的言論活動

「国際機関をつくる話」, 『ファイナンス』2017年1月号 - 2018年8月号

「通貨・金融の安定に向けた国際政策ネットワークによる取り組みと国際機関」, 『学術の動向』2021年1月号